

専念寺通信

四月号 (NO. 116)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



四月に入ってもまだまだ三寒四温がつづいています。きょうの最高気温が明日の最低気温、のような気象情報のことしの春です。専念寺の本堂前のしだれ桜も、ご覧のようにまだつぼみの目立つ三分咲きといったところ

でしょうか。永代供養塔「寂静」の笹竹は勢いを増しています。

☆彼岸ご報告

今年の春の彼岸は例年にも増して、気候、気温の変化のはげしい日々となりました。雨の日やみぞれの日、ぽかぽか陽気の日・・・と皆さまも、いつお墓参りに行こうかと迷われたのではと、お察しいたします。彼岸の入りから明けの日まで246軒の檀家さまが専念寺に足を運んでくださいました。

嬉しかったニュースをいくつかお話しさせていただきます。昨年秋の彼岸会に、病気で入院中、一日だけ外出許可を得てお参りになった檀家さまが、この春無事退院され、いらっしゃいました。亡くなったご主人の命日が彼岸直前のとても寒い日で、お電話で塔婆の申し込みだけをな

さった高齢の檀家さまは、息子さんの運転する車で、念願のお墓参りをされました。小さい頃にお母さんを亡くしたきょうだいが、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんとお参りにみえ、長男は結婚されもう赤ちゃんが、そしてお母さんを失ったときに4歳だった長女のおちびちゃんは17歳のきれいな娘さんに・・・。時々お目にかかっていたはいましたが、皆さんが揃っておいでになると、よくここまで育った、身内の方々はよくここまで育てられた、と感慨もひとしおでした。きっと若くして亡くなったお母さんもほっとしているのでは、と。87歳で単身、さっそうと黄色いバイクに乗っていらっしゃる檀家さま、いつもと変わらずヘルメットも黄色です。毎年11人の大家族でお参りに来るご一家。杖をついてお参りになり、楽しいおしゃべりをして、帰りには杖を置いて行かれた檀家さま。故人のごきょうだいやご子息がみえると、どこかしら亡くなられた方に似ていて、声がそっくりだったり、話し方や雰囲気そっくりだったり、私共は、ご家族に会いながら亡くなった方にまでお会いしているような思いが致しました。大玄関の受付におりますと、みなさまがお墓を洗っていらっしゃる音がきわだって聞こえ、暖かな日など、お墓とこちら側、彼岸と此岸がふっと地続きになる瞬間があるような気持ちになりました。みなさまの大切な方が「よく会いに来てくれた。」と喜んでいるような、そんな気がしました。お供えくださった花は、その後気温が低かったためもあり1週間以上美しく墓所にありました。10日くらいしてようやく、順に供花をお下げしお焚きあげいたしました。

来月はいよいよ施餓鬼会法要です。また皆さまにお目にかかれるのを励みに懸命に努めたいと思っております。

平成22年4月1日 大黒

